

プレス発表資料(お知らせ)

平成19年1月25日
独立行政法人防災科学技術研究所

災害情報集約・配信実証実験

～災害情報の集約と多メディア配信による減災の有効性を検証～

独立行政法人防災科学技術研究所（理事長：岡田 義光）は、藤沢市、NPO 法人、企業等と共同で、放送と通信の連携による総合的な災害情報の集約・配信実証実験を実施します。

本実験では、公的機関からの情報と住民やボランティアからのレポートなどを基に、被災時等における多様なメディアを介した情報収集・集約・配信シナリオを模擬的に実施し、その効果を検証します。

日 時：平成19年2月8日（木）12時00分～16時00分

場 所：神奈川県藤沢市内の藤沢市総合防災センター、レディオ湘南、善行市民センター、善行・六会地区内

主 催：

藤沢市、独立行政法人防災科学技術研究所、藤沢エフエム放送株式会社（レディオ湘南）、特定非営利活動法人藤沢災害救援ボランティアネットワーク、特定非営利活動法人リアルタイム地震情報利用協議会（REIC）、株式会社ミュージックバード（TOKYO FM グループ）、株式会社ニュークリアス、株式会社ジャパンビバレッジ、アビックス株式会社、シャープ株式会社、パシフィックコンサルタンツ株式会社

内容：別紙の通り

本件配布先：文部科学記者会、科学記者会、筑波研究学園都市記者会
神奈川県政記者クラブ、藤沢市政記者クラブ

【内容に関する問い合わせ先】

独立行政法人防災科学技術研究所
防災システム研究センター
長坂、臼田、増田
電 話：029-863-7553
F A X：029-863-7541

（連絡先）

独立行政法人防災科学技術研究所
企画部広報普及課成果普及係
佐竹、山科
電 話：029-863-7783
F A X：029-851-1622

ご案内

藤沢市
独立行政法人防災科学技術研究所
藤沢エフエム放送株式会社（レディオ湘南）
特定非営利活動法人藤沢災害救援ボランティアネットワーク
特定非営利活動法人リアルタイム地震情報利用協議会（REIC）
株式会社ミュージックバード（TOKYO FMグループ）
株式会社ニュークリアス
株式会社ジャパンビバレッジ
アビックス株式会社
シャープ株式会社
パシフィックコンサルタンツ株式会社

災害情報集約・配信実証実験 ～災害情報の集約と多メディア配信による減災の有効性を検証～ 2月8日（木）12：00～ 於：神奈川県藤沢市

藤沢市、独立行政法人防災科学技術研究所、藤沢エフエム放送株式会社（レディオ湘南）、特定非営利活動法人藤沢災害救援ボランティアネットワーク、特定非営利活動法人リアルタイム地震情報利用協議会（REIC）、株式会社ミュージックバード（TOKYO FMグループ）、株式会社ニュークリアス、株式会社ジャパンビバレッジ、アビックス株式会社、シャープ株式会社、パシフィックコンサルタンツ株式会社の11社・団体は共同で、2月8日、放送と通信の連携による総合的な災害情報の集約・配信実証実験を藤沢市で行います。

防災・防犯などの生活情報は、行政による公助に加えて、住民等が自助・共助においても活用できるという視点が肝要で、そのためには、気象庁、市役所など各機関から発信される緊急地震速報や気象情報、ライフライン情報をはじめ、警察・消防における防犯情報・防災情報、被災住民や災害救援ボランティア等からの現地情報（被災状況、復旧状況等）など、住民が求めるあらゆる災害情報を、音声や文字、映像など多種多様な媒体を活用して発信することが求められます。

今回の実験は、災害時における物理的・人的制限を想定し、各機関・企業等や現地からの災害情報を集約し、衛星放送局によるデータ放送とコミュニティ放送の音声放送、さらには携帯電話など通信を同時に活用、多メディアで配信することによって被害の低減を図ることを目的とするもので、地域における防災力の向上を視点に、このスキームの有効性を検証します。

情報の集約においては、各機関・企業等から得られる公的な情報、被災住民や災害救援ボランティアから得られる現地の情報を、災害情報センター（仮称）において災害情報コ

ーディネータが集約し、地域内外への配信処理を行います。

住民への伝達においては、地域エフエム放送である藤沢エフエム放送による音声放送と同時にＣＳ衛星放送局のミュージックバードから、衛星を通じて、実証実験用に家庭に設置するミュージックバードのデータ受信端末や避難経路および避難場所に設置するＬＥＤ表示板付き自動販売機、携帯電話などに配信、住民の様々な受信場所を想定した情報の周知を試みます。

今回の実験では、東海地震を想定した模擬データを使用し、平常時から発災時、避難行動時、避難場所集合時、避難生活時、復旧時に至るまでのそれぞれの場面で、被災状況・ライフライン情報・安否情報・復旧情報等を集約・配信し、その結果から、多メディア連携による情報伝達時間と接触機会、集約・配信方法、情報の内容、精度等について、有効性を評価します。

２月８日当日の実験では、以下のようにして実験参加住民は各種情報を得ることになります。

各家庭内 コミュニティ放送、ミュージックバード放送、携帯メールにて緊急地震速報をはじめとする情報を得る。

避難中 移動途上にコミュニティ放送、ＬＥＤ表示板付き自動販売機、携帯メールで情報を得る

避難所で コミュニティ放送とＬＥＤ表示板付き自動販売と携帯メールで情報を得る。

当日のスケジュール、実験実施場所等

- ・２月８日（木）１２：００～１６：００
- ・藤沢市 市役所内総合防災センター、レディオ湘南、善行市民センター、善行・六会地区内。
- ・なお、１２時から１２時４５分においては、総合防災センター３階に設置する、「災害情報センター」（仮称）にて、個別に質問などにお答えする時間となっております。

詳細なスケジュール、地図等は別紙資料をご参照ください。

参加する社、団体の役割

	団体・企業名	役割
共同「藤沢市における地域リスクガバナンスに関する研究」 共同コンソーシアム	藤沢市	➤ 防災科研との共同研究「藤沢市におけるリスクガバナンスに関する研究」との連携・調整
	(独)防災科学技術研究所	➤ クロスメディア環境における住民等多様な主体による災害情報の活用手法の設計と評価 ➤ 状況認識の統一手法の開発と評価 ➤ 住民等による災害情報の収集におけるeコミュニティ・プラットフォームのあり方に関する検討と評価 ➤ 災害情報の集約・配信を行う組織(災害情報センター(仮称))及び災害情報コーディネータのあり方に関する検討と評価
	(特)藤沢災害救援ボランティアネットワーク	➤ 被災住民及び災害救援ボランティアとしての行動(実証実験上) ➤ 災害情報センター(仮称)及び災害情報コーディネータのあり方に関する検討と評価
	シャープ(株)	➤ 災害情報センター(仮称)における大型液晶モニターの貸与
民間「衛星放送を利用した防災情報配信に関する研究」 民間コンソーシアム	(特)リアルタイム地震情報利用協議会 (REIC)	➤ 全体総括 ➤ 参加団体のコーディネート ➤ 技術部会運営
	パシフィックコンサルタンツ(株)	➤ 実験シナリオ立案 ➤ 実証実験検証 ➤ 進行支援 ➤ コンテンツ部会運営
	藤沢エフエム放送(株) (レディオ湘南)	➤ 実験時における地域FM波での防災情報の放送 ➤ パーソナリティによる情報(安否、ライフライン)の伝達
	(株)ミュージックバード (TOKYO FMグループ)	➤ 収集した各種情報を、コミュニティ放送はじめ避難所等の専用受信機、文字・画像データ放送で配信 ➤ 広報戦略部会運営
	(株)ニュークリアス	➤ 実験時におけるLED表示板付き飲料自販機を用いた、災害情報安否情報配信
	(株)ジャパンビバレッジ	
アピックス(株)	➤ 携帯電話メールへの情報配信(株)ニュークリアスのみ)	

総合プロデューサー REIC 小島隆雄

ご取材要領、お問い合わせ

以下の担当者までお電話、メールでご連絡ください。

リアルタイム地震情報利用協議会 (REIC)

(朴^{ぼく}または水井 03-5366-2720 e-mail: boku@real-time.jp, mizui@real-time.jp)

(株)ミュージックバード

(松崎・03-3261-8180 e-mail: matsuzaki@musicbird.co.jp)

以上

実験の概要

実験日時

2007年2月8日(木) 12:00 から 16:00 まで(予定)

実験場所 (下記の場所にて同時に進行します)

- 藤沢市総合防災センター
- 藤沢市善行、六会地区内
- レディオ湘南
- 藤沢市善行市民センター

実験目的

その1: 被災住民や災害救援ボランティアから投稿される災害情報の活用

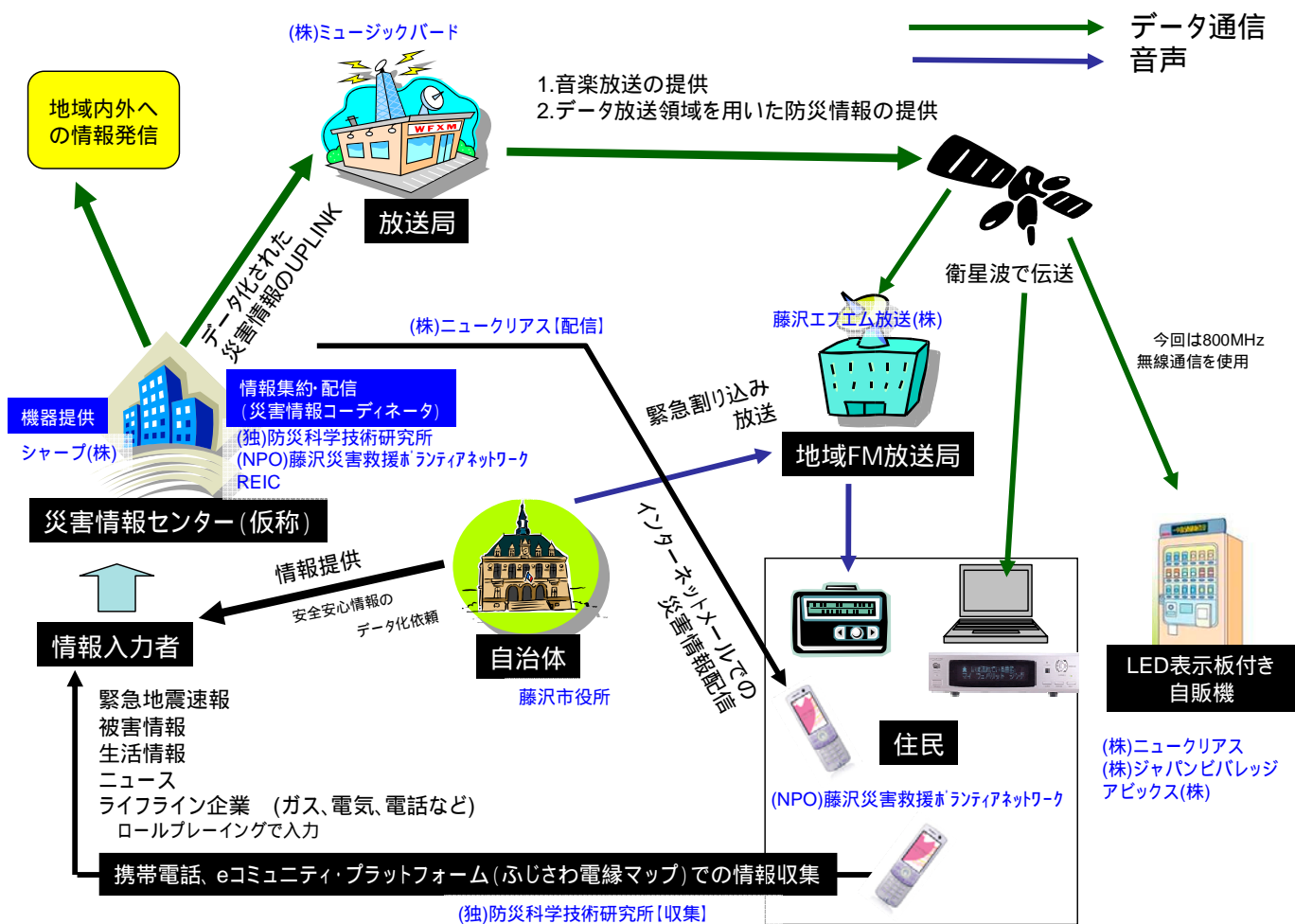
災害時には、行政や公益企業等から得られる公的な情報に加え、実際に災害現場にいる住民や災害救援ボランティアからの情報も非常に有効です。本実験では、住民や災害救援ボランティアからの災害情報(被災状況、復旧・復興状況等)を、eコミュニティ・プラットフォーム(ふじさわ電縁マップ)を活用して投稿・収集し、災害情報センター(仮称)での情報集約・発信につなげるという情報・社会モデルについて、その有効性の評価と課題の抽出を行います。

その2: 安全安心に関わるあらゆる情報を集約・発信し、状況認識を統一する方法

災害時には、現状では複数から発生する情報を集約・発信する組織が存在しない為、貴重な情報が被災者に活かされないという問題があります。本実験では、行政、リアルタイム地震情報利用協議会、公益企業などの様々な機関や、被災住民、災害救援ボランティア等から寄せられる情報を集約する役割として災害情報センター(仮称)を設置し、その中で災害情報コーディネータが活動するという社会モデルについて、その有効性の評価と課題の抽出を行います。

その3: 災害に関わる情報発信を行う複数の媒体(クロスメディア)の提案と可能性の検討

災害情報を配信する媒体は複数であることが望ましいことから、被災時に自宅から避難所まで、その移動中も含め、衛星放送、コミュニティ放送波、LED表示板付き飲料自販機、携帯電話メールを組み合わせた、どこでも情報収集が可能な媒体を用意し、その有効性の評価と課題の抽出を行います。



図・実験における情報の流れ

実験方法

上図の通り、災害情報の収集、集約、配信を行い、先に示した実験目的が実験によって十分に達成できたかどうか、ヒアリングにより評価します。

- 市の総合防災センターに陣地する災害情報センター(仮称)で、災害に関するあらゆる情報を集約・配信し、クロスメディアで伝達します。
- 実際に自宅から避難所と位置づけた善行市民センターまで、クロスメディアで災害情報センター(仮称)から流された情報を受信しながら避難をします。
- 避難所でも避難所生活、復旧に関する情報をクロスメディアで受けとります。

実験日時: 2007年2月8日(木) 午後12:00から午後4:00まで。具体的には次のとおりとなります。(予定)

時間	事項	対象場所	被験者の情報収集手段	内容
12:00~12:45	実験説明会	市役所内総合防災センター内		実験の詳細の説明、質疑応答
13:00~16:00	実験	下記の箇所で同時進行となります		平常時から復旧時までの複数のフェーズを3時間かけて執り行う。
【13:40】	東海地震発生	情報配信: 藤沢市総合防災センター	衛星放送による専用端末/FMラジオチューナー/携帯メール	大規模地震の発生を仮定し、情報配信ならびに放送。
【13:40~15:00】	避難行動	放送スタジオ: レディオ湘南 情報受信先: 善行、六会地区の被験者宅	FMラジオチューナー/携帯メール/LED表示板付き飲料自販機	被験者宅からめいめい一度、事務所に集合して、被験者全員で避難先の善行市民センターへ向かう
【15:00~16:00】	避難所生活	避難先: 善行市民センター	衛星放送による専用端末/FMラジオチューナー/携帯メール/LED表示板付き飲料自販機	避難先としている善行市民センターで避難所生活に必要な諸情報を入手してもらう
16:00	解散	善行市民センター		